

令和3年1月15日 避難訓練での講話

今から26年前の1月17日に阪神淡路大震災が、10年前には東日本大震災が起こりました。平成の時代に続けておこった大きな地震災害で、合わせて2万5千人近くの人々の命が失われました。そしてそれ以上の人々が家族を失った悲しみに暮れました。

地震や津波などの災害は必ず来るものです。それは30年後か、3分後なのか、残念ながら前もって知る力は私たちにはありません。私たちにできることは地震や津波がどのようにやって来てどんな被害を及ぼすかを過去から学びそれに備えることそして、後の人に伝えることです。

これまでの大きな災害を振り返っていえることがあります。人間には自然をコントロールするという力はありません。あるのは何度災害が起こっても助け合って立ち上がっていく強さと、傷つき弱っている人を助けようという優しさです。

コロナの感染も自分一人では防げません。みんなで協力して乗り越えましょう。また病院で懸命に医療に励む人に感謝し、感染した人を決して差別したりせず。思いやりの気持ちを持って支えていきましょう。

一度失われた命は返りません。先の地震や津波では何百人何千人という君たちと同じ小学生が、命と共に描いていた夢や未来を失いました。みなさんはそのことを忘れず、命を、夢を大切にしてください。

そして困っている人を優しく支え、苦しいことから逃げない強さを持った人になって、与えられた時間をしっかり生きて下さい。

1月17日にだけ災害のことを考えるのではなく、日ごろから備えを忘れず、もし地震が起こったら、どのようにすればいいのかを家族で話し合っておくことが大事です。では、今日一日を大切に過ごしましょう。